

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	原井川建設株式会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	愛媛県西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	H22年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あいの里は立地条件にも恵まれ地域の中で温かく見守られている。利用者、家族、職員は家族のような関係を築きアットホームな雰囲気である。「百菜園」と命名した広い菜園には、代表者自らが季節の野菜を沢山植えて頂いている。私達も利用者さんと共にできることを手伝いながら、育てる喜び、収穫する喜び、食べる楽しみを感じている。交流館があることで、演芸ボランティアさんも多く来て頂き、その折には地域の方達にも声をかけて一緒に楽しんで頂き、利用者との交流ができています。今年では地域の敬老者を招待し、一緒に敬老会を行い楽しいひと時を過ごすことができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な農園に囲まれた二階建てのグループホームである。自家菜園も広く、丁寧に手入れされた季節の野菜が数多く育っている。入居者と共に収穫した野菜は毎日の食事に利用したり、近隣の住民へのお裾分けとして交流のきっかけにもなっている。代表者は、積極的に現場へ足を運び職員が外部研修へ参加しやすいような配慮を行っている。ホーム内に増設された交流館は、名前の通り地域住民との交流の場になっており、ホーム内の行事や演芸会の際には近隣住民の方も自由に参加できるようになっている。運営推進会議の参加者も近隣住民であり、会議だけではなく行事への参加、協力も得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) さくら(1F)

記入者(管理者)

氏名 真田 ハル子

評価完了日 22年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を常に意識しながら、日々のケアに努めている。更に具体的にサブテーマを掲げホーム内の目につきやすい所に貼付しお互いに確認しながら実践している。</p> <p>(外部評価) 基本理念を軸にして、毎年サブテーマを管理者が考案し、職員と一緒に会議で検討している。職員一人ひとりの年間目標も掲げており、理念同様、目につきやすい所に掲示し、理念の実践につなげている。年度末にサブテーマと個人目標について、職員全員で振り返り、反省を行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホームは開設当時から、自治会に加入し共同作業、常会には代表者が参加している。地域の行事には利用者も参加している。祭りには、神輿、牛鬼、お多福の訪問、亥の子には子供達が亥の子つきに来てくれる。外部からの演芸ボランティア時には近所にも声をかけ一緒に楽しんでいる。地域の障害児のボランティアも受け入れ交流をしている。</p> <p>(外部評価) 自家菜園で収穫された野菜を近隣にお裾分けしたり、ホーム内にある交流館で行事が行われる際には、地域の住民にも声かけを行い、交流館を開放するなど、積極的に地域と関わりを持っている。非常災害時の近隣協力も得られるような体制になっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 交流館があることで町内外から、時には県外からも演芸ボランティアの慰問が再々ある。地域のボランティアグループ(赤十字奉仕団)の方が年に3~4回来て頂き利用者との交流を通し認知症の理解を深めて頂いている。認知症の講演会にも声をかけ参加された。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を定期的開催し、利用者の状況、サービスの状況、課題等について報告し意見を聞きサービスの向上に役立てている。委員さんは真剣に討議をして頂き、行事等にも積極的に参加協力を頂いている。今年度は一部委員さんの交代も行い、また、他施設管理者もお互いの推進委員として協力している。職員も交代で参加している。</p> <p>(外部評価) 代表者や管理者のみではなく、職員も参加ができるように、会議の時間帯を夜間に設定して実施している。会議のメンバーには近隣の方も多く、行事にも参加してもらったり、非常災害時に協力してもらえよう会議を通じて行っている。情報交換や助言をもらいながら、質の向上に繋げている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市の担当者は相談し易く、親切に教えて頂くので困ったり迷ったりするときには即相談をしている。市の集団指導や説明会には必ず参加している。利用者の介護保険の訪問調査時には、利用者と一緒にお茶をして頂くなどホーム内の様子なども日常的に見てもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議が夜間開催されるにも関わらず、毎回参加が得られている。行事にも参加してもらい利用者と交流を図るなど顔なじみの関係作りができており、ホームに対しての理解も得られている。積極的に関係を築く取り組みを行っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関の施錠は夜8時から翌朝6時までで他はフリーである。居室には鍵はついていない。身体拘束について研修会にも参加し、勉強会も行い職員の意識の統一を図っている。</p> <p>(外部評価) 外部の研修に参加したり、ホーム内独自の勉強会を行うなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。不穏な行動がある場合は、落ち着くまで職員が付き添ったり、話を傾聴するなど個人を尊重した対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会や勉強会で学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。身体的な虐待はありえないが、時として虐待とまではいなくても好ましくない言葉遣いにはお互い注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者が権利擁護の研修会に参加し、学んだことを勉強会で職員に報告説明を行ったが、十分理解はできていない。ユニットには制度を利用されている方はないが、今後のために理解しておくことは必要である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時十分説明をしている。改定事項が生じた時は実施3ヶ月前から、文書で資料等も添えて家族に配布し同意を得ている。面会時等にも更に口頭で伝えるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に要望や意見を聴くようにしている。市の介護相談員さんが3ヶ月毎に訪問して頂き、利用者から直接意見を聴いてもらいホームの方へ文書で送られてくる。それを職員会で討議して運営に活かしている。毎月担当者から家族にお便りを書きその時にもご意見など伺っている。 (外部評価) 面会時には職員から必ず声かけを行い話をするようにしている。月1回は担当者から状況報告の手紙を送り、家族と繋がりを持つように努めている。年に1回、食事会を兼ねて家族会を開催し要望等を聞く機会を設けており、半数以上の家族が参加して有意義な会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回ユニットごと、あるいは全体で職員会を行い、代表者もその都度参加されている。職員は気軽に意見や要望を述べることができ、運営に反映できている。 (外部評価) 代表者は毎月開催されるユニット会に必ず参加し、職員からの意見や提案を聞いている。代表者、管理者ともに日頃から職員との関係づくりを心がけており、気兼ねなく意見が出せる環境となっている。代表者が柔軟な姿勢と理解を示しており、意見や要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務状況等は逐一報告を行い把握して頂いている。給与面についても出来る限りの努力をされている。全職員に対する研修の参加費の負担、勤務扱いとして時間外手当の支給、市外への研修には交通費も支給される。希望休も十分に取れる体制である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修にも積極的に参加を呼びかけ、常勤、非常勤の区別なく誰でも研修に参加できるようにしている。今年度から自社研修、勉強会を月1回行っている。更に今年は県社協の補助を受けて市内のグループホーム5箇所が連携して独自の講演会研修会を実施しており、これらにも全職員が参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 毎年相互研修に参加してお互いのグループホームを訪問し、意見交換、気づき等サービスの質の向上に役立てている。グループホーム研修会や合同研修会など積極的に参加することにより、情報の交換や交流ができている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には本人と面談を行い、また、家族や関係者から情報を収集して、本人が安心して生活できる環境作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込みからサービス開始に至る段階で家族の困っていること、不安に思っていること、要望等をお聴きしてケアプランに反映し、家族が安心して大切な家族を預けることができるように初期のうちに信頼関係を築くことに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 先ず、本人家族にとって必要なものは何かを見極めることが大切と認識しているが、初期対応につまづいたケースもあった。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) それぞれの利用者に出ることや出来そうなことを一緒にしながら、共に支えあい楽しく過ごせるようにしているが、中には何もしたくない方もあり、十分とは言えない。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や利用料納入時など、管理者も職員も時間をつくり、利用者の状況や家族の心配事など聴くように努めている。体調変化や受診状況等も逐一電話等で報告して理解して頂いている。毎月の担当からのお便りを心待ちされているとも聞いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が入居前からかかっている医療機関や主治医との関係を継続している。地域の行事等にも出来る限り参加し、馴染みの人との出会いを大切にしている。地域の高齢者を敬老会に招待し一緒に敬老会を行い、喜んで頂いた。近所の理髪店には、全員出かけるようにしている。 (外部評価) 地元の利用者が多く、散髪などは近所の理髪店へ出かけていき、帰りは散歩がてら送って帰ってくれるなど、住民との関係も築けている。盆や正月などを利用して自宅へ外泊したり、家族の帰省に合わせて平日帰られる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) マイペースを尊重しながら、家族のような雰囲気を大切にしているが、時には荒らしい言葉が飛ぶ時もあり、職員が嗜めるときもあるが尾を引くようなことはない。しばらくすれば機嫌も直る。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院が長期になり、退居となってもお見舞いに行ったり、家族にも様子を伺ったりしている。葬儀にも参列している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中でその人の思いや要望を知り、出来る限り添えるように努めている。担当職員がより身近な相談者の役割も担っている。担当者を中心にして、気づきや情報を全職員が共有してより良いケアを目指している。	
			(外部評価) 日々のケアの中での気づきを申し送りノートや、個人ファイルに記録して職員全員で共有できるようになっている。担当者が中心になって、個人の支援経過記録を作成し、何気ない仕草や表情からも意向や思いを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の訪問調査、関係者（ケアマネ、サービス事業者）家族からの情報、本人からの聞き取り、面会時の親戚、友人等からの話の中から状況を把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録や申し送りで個々の状態を把握し、それぞれの出来る力を活かして生活できるように努めている。また、身体の異変を感じたらすぐに管理者に伝えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式のアセスメントシートを使い、本人、家族の意向を踏まえた介護計画を作成、3ヶ月ごとにモニタリングを行い全職員が情報を共有しながら、より良い支援が出来るように努めている。	
			(外部評価) 1人の利用者に対して職員2人が担当している。担当者が主になって、プランの原案を作成し、職員全員で検討している。計画見直しの際には、素案に家族の記入欄を設け家族から意見や要望をもらう工夫をしている。3か月毎に担当者が評価し、計画を現状に即して作成しなおしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録により、日々の暮らし方の様子、体調の変化等を把握し実践につなげている。3ヶ月ごとの見直しにとどまらず現状に即した介護計画の見直しを適宜行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の希望に応じた外出支援、かかりつけ医の受診、他市町の専門医の受診介助、理美容室利用の支援、墓参りなどその時のニーズに添った柔軟な支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域住民の方、各種ボランティアさん、中学、高校、地域の子供会、民生委員、介護相談委員、生活支援員等多方面からの協力支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 各人が入居前から利用されているかかりつけ医を利用 することにより、身体状況の把握が継続して出来本人 家族の安心につなげている。通院介助は管理者が行っ ており、主治医との連携が十分に図れている。その日 の受診状況を個人記録、申し送りで職員は周知してい る。家族にも適宜報告をしている (外部評価) 一人ひとりの希望を大切に考え、入居前のかかりつけ 医に受診できるよう管理者が中心となり支援をしてい る。管理者と個々の主治医は顔なじみの関係にあり、 相談や連絡を行い適切な医療が受けられるよう支援し ている。受診結果は家族、職員、協力医へ報告され、 緊急時には協力医が対応するなど、協力医との連携も 図っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師は看護面での気づきや助言を介護職に伝え、お 互いが情報を交換しながら利用者の健康管理に努めて いる。定期的に訪問される精神科の訪問看護師、かか りつけ医の看護師共気軽に相談でき利用者の健康管理 に協働できている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した場合、毎日誰かは面会し、状況把握 に努めている。主治医や病棟看護師長に治療状況や退 院の見通しなどを聞き、早期退院に向けて病院の地域 連携室とも情報を共有している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 状態が悪くなった場合、ホームでの対応には限りがあ ることを家族に伝え、本人にもどうしたいかを先ず聴 いて、主治医に本人家族の意向を伝えて対応してい る。まだホームでの看取りを行ったことはない。職員 の心構えも十分ではない。 (外部評価) 重度化や終末期については、利用者や家族の意向を踏 まえながら支援を行う方針ではあるが、看取りを経験 したことのある職員はなく、看取り指針に沿って勉強 会を開くなど準備段階にある。	重度化や終末期に向けての職員の意識統一が図れるよ う、今後も話し合いや勉強会を通じて支援体制が整備 されていくことを期待したい。また、ホームの指針と 家族の認識が一致するよう、ホームとしての対応や限 界を明確にしていくことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署による緊急時の応急処置の指導、演習を行った。AEDはホームに設置していないので、救急車が到着するまでの応急処置をあわてずにできるように、定期的に訓練を行いたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回は消防署立会いの通報、消火、避難訓練を行い、ホーム単独でも年4～5回は夜間を想定して避難訓練を実施している。今年は実際に夜間に近所の方の協力を得ながら、全員が参加し、緊急連絡網の起動状況を確認した。地元消防団との協力体制もできている。 (外部評価) 消防署立会いの避難訓練以外に、年3回自主訓練を行っている。運営推進会議を通じて、非常災害時の協力依頼もしており、近隣住民が緊急連絡網にも入っている。地元の消防団への協力体制も築けており、現在、ホームの見取り図や、利用者の身体状況等を記載した情報提供書を消防団用に作成中である。	近隣との協力体制も築けており、避難訓練もいろいろな状況を想定しながら実施している。今後も地域で相互に支え合う関係を構築されることを望むと共に、地域の自主防災組織に対して作成中である情報提供書により、更なる連携が図られることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応、言葉遣いにも気をつけている。入浴や排泄介助においても尊厳と安全性に配慮している。居室は個人の家としての認識を持って対応している。 (外部評価) 言葉遣いについては、会議においても時折触れて話し合っている。穏やかな口調で話しかけるよう心がけており、個人を尊重した対応に努めている。入浴は完全個室でプライバシーへの配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人ができるだけ自己決定や思いを伝えることが出来るようにコミュニケーションを図りながら待つゆとりを持って接している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個人のペースを大切にして、希望を聴き本人の意向を優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 当日の洋服選びから、理美容についても適宜希望を聞きながら支援している。身の回り品の買い物も出来るだけ本人を伴って買い物に行くようにしている。一部の方については職員の判断になっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園の世話、野菜の収穫、調理の準備、後片付けなど各人の出来る力を活かして一緒に行っている。当然全く出来ない人もあり、そうした人には味はどうですか？など声をかけながら自力摂取を勧めている。	
			(外部評価) 自家菜園で利用者と共に収穫した野菜は食の楽しみへと繋がっている。皮むきなどの調理の下準備から洗い物や後片付け等、個々の能力を活かす支援を行っている。利用者の希望メニューを取り入れながら、各ユニット毎で日々、献立を作成している。落ち着いた雰囲気の中で食事ができるよう、会話しながら食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量や水分量は個人別に記録し、少ないようであれば代替品を使うなどしている。市の管理栄養士さんに献立のチェックを受け、アドバイスに添って改善している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きを行い、歯のない方もうがいをして口の中に食べ物のかすなど残さないように気をつけている。口の中の清潔が大切なことも時々話すようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>全員昼間はトイレで排泄している。その人に応じて布パンツ、紙パンツ、オムツ、パットの大小と使い分けごみの減量、経済面に配慮している。自立の方にも裏表が人目でわかるパットを使って排泄の失敗を少なくし清潔保持に気をつけている。排泄記録を元にトイレ誘導をさりげなく行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日中は全員トイレ誘導を行っている。排泄記録にて個々の排泄リズムをつかみ、夜間も時間をみてトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>適正な水分補給、食物繊維、牛乳の朝いち飲用、散歩、体操など行っているが、下剤を服用されている方が殆んどである。下剤の量などは個人別に細かくチェックして下痢などにならないように気をつけている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>当日の体調や本人の希望を優先して、入浴は一人ずつゆっくり楽しんで頂くように安全面に気をつけながら支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回、1日おきに入浴できるよう支援している。体調不良などで入浴できなかった場合は、翌日に入浴するなど、個々に応じた入浴の支援をしている。プライバシーにも配慮し、着衣が終わるまで、完全個室の対応で安心して入浴ができるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>室内の明かりの調節、冷暖房の管理、寝具の調節を適宜行っている。昼間、夜間を問わずその人のペースで休息、安眠が出来るように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに薬の処方箋を綴じており、どんな薬を飲んでいるか、目的や副作用等を確認できるようにしている。薬の変更なども申し送り、個人記録で確認できるようにしている。誤薬のないようにその都度、名前を確認し完全に服薬できたことを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの持てる力を発揮している。掃除、洗濯物たたみ、畑の草引き、ごみ捨て、花の水遣り等日常生活での役割を分担し職員と共に行っている。新聞や雑誌を読んだり、散歩、買い物、通院にも通り道を変えたり、時間があればついでに短時間のドライブなどを行って気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は努めて外にできるようにしている。庭先での日向ぼっこ、車椅子での散歩、地域内外のイベント参加、行楽シーズン中の全員参加の花見やドライブ、他施設のイベント参加、ボランティアさんの散歩支援、運営推進委員さんのイベント参加支援などの協力も得ている。 (外部評価) ホームの周辺は農園が広がっており、安全に散歩が行えるようになっている。近隣の店に買物へ出かけた後、洗濯物干しなど、日常的に外気に触れている。ボランティアの協力を得て散歩へ出かけた後、季節によってコスモス観賞やそうめん流しなど、遠方へもドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者が預かっているが、小額を自分で持っている方もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 面会が多いので手紙や電話はほとんどない。自分で電話をかけられる方もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 明るく清潔で温度、換気、消臭などに気を配りながら気持ちよく過ごしてもらえるようにしている。行事の写真を貼ったり、季節の花を活けて生活感を味わえるように配慮している。	
			(外部評価) 食堂につづく居間はくつろぎやすいようにソファが置かれており、畳のスペースも設けられている。床暖房になっており、温度管理にも配慮している。食堂は職員や利用者の話し声で心地よい活気に包まれていて、明るい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファに座る位置、食堂の椅子、それぞれ思い思いの居場所があり、話をする人、テレビを見る人、居眠りをする人と幅広い雰囲気で過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に使い慣れた物を持ってきて頂くようにしている。季節の花を飾ったり、仏壇を持参されていたり、家族の写真や飾るなどそれぞれの好みや生活感が出ている環境作りに努めている。	
			(外部評価) 各部屋にクローゼットが備え付けられており、衣類や衣装ケースなどの収納が行えるようになっている。家族の写真や手作りの小物、テレビ、机など、それぞれが好みの物や使い慣れた物を持ち込み、居心地のよい空間作りがされている。陽の光が射し込み、明るい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室、廊下、トイレ、浴室、非常階段、玄関などに手すりを設置して安全面と身体機能の維持に配慮している。トイレや居室には、その人の目線に合わせた目印などもつけて場所の確認ができるようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	原井川建設株式会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	愛媛県西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	H22年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あいの里は、アットホームな雰囲気の中で仲良く暮らしています。「百菜園」と命名した広い畑には、代表者自らが季節の野菜を沢山植えて頂いている。私達も利用者さんと共に出来ることを手伝いながら、育てる喜び、収穫する喜び、食べる喜びを感じている。地域の方々との交流も増え、ボランティアの訪問、地域敬老者との交流など地域に馴染んできている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な農園に囲まれた二階建てのグループホームである。自家菜園も広く、丁寧に手入れされた季節の野菜が数多く育っている。入居者と共に収穫した野菜は毎日の食事に利用したり、近隣の住民へのお裾分けとして交流のきっかけにもなっている。代表者は、積極的に現場へ足を運び職員が外部研修へ参加しやすいような配慮を行っている。ホーム内に増設された交流館は、名前の通り地域住民との交流の場になっており、ホーム内の行事や演芸会の際には近隣住民の方も自由に参加できるようになっている。運営推進会議の参加者も近隣住民であり、会議だけではなく行事への参加、協力も得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) ひまわり(2F)

記入者(管理者)

氏名 松本 光枝

評価完了日 H22 年 12 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を常に意識しながら、日々のケアに努めている。サブテーマをホームの目につきやすい所に貼り、お互いに確認しながら実践している。</p> <p>(外部評価) 基本理念を軸にして、毎年サブテーマを管理者が考案し、職員と一緒に会議で検討している。職員一人ひとりの年間目標も掲げており、理念同様、目につきやすい所に掲示し、理念の実践につなげている。年度末にサブテーマと個人目標について、職員全員で振り返り、反省を行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 開設当初から自治会に加入し、運営者が常会や共同作業には出席している。地域の行事には利用度も出来る限り参加している。祭りには神輿や牛鬼が訪問して、祭り気分を味わわせてくれる。亥の子には地域の子供達が亥の子つきにも来てくれる。外部からの演芸ボランティアがあるときは近所にも声をかけて一緒に楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 自家菜園で収穫された野菜を近隣にお裾分けしたり、ホーム内にある交流館で行事が行われる際には、地域の住民にも声かけを行い、交流館を開放するなど、積極的に地域と関わりを持っている。非常災害時の近隣協力も得られるような体制になっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 交流館に地域のボランティアさんが多く来て頂き、認知症に対し理解して頂いている。今年は地域の高齢者を敬老会に招待し利用者と一緒に祝いをして交流ができた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を開催。地域の方、他施設長、家族代表、市担当者、職員も交代で参加している。和やかな雰囲気で行うことができ、意見や提案なども活発にでている。	
			(外部評価) 代表者や管理者のみではなく、職員も参加できるように、会議の時間帯を夜間に設定して実施している。会議のメンバーには近隣の方も多く、行事にも参加してもらったり、非常災害時に協力してもらえるよう会議を通じて行っている。情報交換や助言をもらいながら、質の向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者は親切で協力的なので相談しやすい。連携は十分にできている。	
			(外部評価) 運営推進会議が夜間開催されるにも関わらず、毎回参加が得られている。行事にも参加してもらい利用者と交流を図るなど顔なじみの関係作りができており、ホームに対しての理解も得られている。積極的に関係を築く取り組みを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の外部研修に参加、内部での勉強会を開き、具体的な行為等を知り理解するように努めている。利用者の安全を第一に考えながら、外出可能な方は自由に外出できている。	
			(外部評価) 外部の研修に参加したり、ホーム内独自の勉強会を行うなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。不穏な行動がある場合は、落ち着くまで職員が付き添ったり、話を傾聴するなど個人を尊重した対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待等の研修に参加し、職員会や勉強会で学習している。身体的虐待はもちろんのこと、言葉による虐待にも気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者、リーダーが研修に参加し、勉強会で説明を行ったが難しくて良くわからない。入居前から精神障害者の方で日常生活自立支援制度を利用されている方もあるので、もっと勉強をして理解したい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時に十分説明をしている。一部改正を行ったときは開始3ヶ月前から資料を添えて改正に至った経緯等を文書で説明し全員の同意を得た上で実施した。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時に意見、要望を伺っている。 (外部評価) 面会時には職員から必ず声かけを行い話をするようにしている。月1回は担当者から状況報告の手紙を送り、家族と繋がりを持つように努めている。年に1回、食事会を兼ねて家族会を開催し要望等を聞く機会を設けており、半数以上の家族が参加して有意義な会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月職員会議があり、代表者も必ず参加される。職員は気兼ねなく意見を述べる事が出来、代表者は職員の意見に十分配慮した対応をされている。</p> <p>(外部評価) 代表者は毎月開催されるユニット会に必ず参加し、職員からの意見や提案を聞いている。代表者、管理者ともに日頃から職員との関係づくりを心がけており、気兼ねなく意見が出せる環境となっている。代表者が柔軟な姿勢と理解を示しており、意見や要望を運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 研修会参加費の負担、常勤非常勤の区別なく研修は勤務扱いである。希望休も十分取れるように柔軟な勤務体制である。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 常勤非常勤を問わず均等に学習する機会を設けて、外部研修には多く参加している。自社研修会も定期的に開催して職員のスキルアップにつなげている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 外部研修で情報交換や相互研修でお互いのホームを訪問してホームの質の向上に努めている。今年は更に市内の5つのグループホームが連携して講演会や研修会を実施して交流を深めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 信頼関係を早期に築くことが一番大切なので、入居当初は頻繁に声をかけながら話を良く聴き安心して生活できるように気をつけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時等努めて時間をとって、家族の話を聴くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 何が必要か、何を求めているかを本人家族と話し合いながら対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として尊敬し、また、生活のパートナーとしてお互いに助け合い支えあいながらより良い関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には話を聴いたり、担当が毎月家族にお便りを書き状況を報告している。時には家族にしか出来ない支援を可能な範囲でお願いするなど、本人を共に支えていけるように信頼関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前にかかっていた医療機関や主治医との関係を継続して利用者、家族の安心につなげている。地域の行事にも出来るだけ参加し、馴染みの人や場所に出かける楽しみを味わってもらっている。 (外部評価) 地元の利用者が多く、散髪などは近所の理髪店へ出かけていき、帰りは散歩がてら送って帰ってくれるなど、住民との関係も築けている。盆や正月などを利用して自宅へ外泊したり、家族の帰省に合わせて平日帰られる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共通の話題を提供し、互いの関係を良くしたり、仲たがいになりそうな時には職員が中に入り治めている。身体の元気な人が弱い人に対して手を差し伸べるなど 労わり合う場面も多く見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、家族やケアマネ、転居施設に十分な情報を提供している。転居された施設を利用者を伴って訪問することもある。街や病院で本人や家族を見かけたら声をかけている。葬儀にも参列することもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) マイペースを尊重しながら、本人の意向を確認している。ケアプランの更新時には、本人、家族の意向を再確認し、ケア会議で検討している。 (外部評価) 日々のケアの中での気づきを申し送りノートや、個人ファイルに記録して職員全員で共有できるようになっている。担当者が中心になって、個人の支援経過記録を作成し、何気ない仕草や表情からも意向や思いを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の訪問調査、担当ケアマネ、サービス関係機関からの情報等や面会時の家族、友人知人からも話を聴き情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々で出来ることは本人が拒否されない限りしてもらっている（掃除、洗濯物干し、たたみ、食器拭きなど）。身体の動きにくい人でも、体操など出来る範囲で身体を動かすように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者が問題提起を行い、チームで話し合い個別性のある介護計画を作成し、より良いケアが行えるよう努めている。	
			(外部評価) 1人の利用者に対して職員2人が担当している。担当者が主になって、プランの原案を作成し、職員全員で検討している。計画見直しの際には、素案に家族の記入欄を設け家族から意見や要望をもらう工夫をしている。3か月毎に担当者が評価し、計画を現状に即して作成しなおしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の担当を決め、気づきや変化があれば申し送りノートに記入し情報を共有している。ケア会議においても、気づきがあれば全員で話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の希望に応じた外出支援、かかりつけ医の受診、町内外の専門医の受診介助、理美容室利用の援助、受診を利用して他施設に入居している方の面会など、そのときのニーズに添って柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方、各種ボランティアさん、中学、高校、地域の子供会、民生委員、介護相談員等他方面から協力支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居前からのかかりつけ医を継続して利用できるよう に支援している。通院介助はすべて管理者が行い、主 治医、看護師との連携が十分に図れている。受診状況 は個人記録や申し送りでスタッフにわかるようにして いる。必要であれば家族にも報告をしている。</p> <p>(外部評価) 一人ひとりの希望を大切に考え、入居前のかかりつけ 医に受診できるよう管理者が中心となり支援をしてい る。管理者と個々の主治医は顔なじみの関係にあり、 相談や連絡を行い適切な医療が受けられるよう支援し ている。受診結果は家族、職員、協力医へ報告され、 緊急時には協力医が対応するなど、協力医との連携も 図っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 現在週1回(8時間勤務)の体制で看護師を雇用し、利 用者の健康管理を行っている。看護師は看護面での気 づきや情報を介護者に伝え、職員も相談にも乗っても らう等双方が協働して支援している。訪問看護師に は、服薬の状況やホーム内の様子を伝え、利用者との 会話も大事にして頂いている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した場合、洗濯物などはホームで行い、毎日病院 を訪れ利用者の状況を看護師に聴く等、早期退院に向 けた連携がとれている。毎日顔を見せることで利用者 の安心にもつなげている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 状態の変化があり、ホームでの対応が難しくなった場 合は、早い段階で本人と家族に意向を確認して、意向 に添って対応している。ホームでの看取りを希望され た方もないため、実際に看取りを行ったことはない。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期については、利用者や家族の意向を踏 まえながら支援を行う方針ではあるが、看取りを経験 したことのある職員はなく、看取り指針に沿って勉強 会を開くなど準備段階にある。</p>	<p>重度化や終末期に向けての職員の意識統一が図れるよ う、今後も話し合いや勉強会を通じて支援体制が整備 されていくことを期待したい。また、ホームの指針と 家族の認識が一致するよう、ホームとしての対応や限 界を明確にしていくことが望まれる。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署員指導の下、救命救急訓練を行った。応急手当などの勉強会も行ったが、今後も定期的に演習を行い、緊急時に誰もが慌てずに行動できるようにしたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年間を通じて定期的に避難訓練を実施している。今年は夜間にも訓練を行い、緊急連絡網の起動状況の確認、近所の方にも参加、協力をして頂いた。今後地元消防団との連携がとれるようにしていきたい。 (外部評価) 消防署立会いの避難訓練以外に、年3回自主訓練を行っている。運営推進会議を通じて、非常災害時の協力依頼もしており、近隣住民が緊急連絡網にも入っている。地元の消防団への協力体制も築けており、現在、ホームの見取り図や、利用者の身体状況等を記載した情報提供書を消防団用に作成中である。	近隣との協力体制も築けており、避難訓練もいろいろな状況を想定しながら実施している。今後も地域で相互に支え合う関係を構築されることを望むと共に、地域の自主防災組織に対して作成中である情報提供書により、更なる連携が図られることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を大切に、馴れ合いによる言葉遣いなどにも気をつけている。入浴や排泄介助においては特にさりげない支援を心がけるように努めている。 (外部評価) 言葉遣いについては、会議においても時折触れて話し合っている。穏やかな口調で話しかけるよう心がけており、個人を尊重した対応に努めている。入浴は完全個室でプライバシーへの配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人ひとりの意見や要望に応えられるように努めている。自己決定が出来ない場合は一緒に考え無理強いをしないようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意向を聴き、希望に添って過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服選びなど自分で決められない場合は、一緒に選ぶようにしている。買い物などは、なるべく本人を伴って行き自分で選ぶことができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園の世話、野菜の収穫、調理の下準備、後片付けと各人の出来ることを一緒に行っている。その人に合わせた調理方法を工夫し、美味しく食べて頂けるように努めている。 (外部評価) 自家菜園で利用者と共に収穫した野菜は食の楽しみへと繋がっている。皮むきなどの調理の下準備から洗い物や後片付け等、個々の能力を活かす支援を行っている。利用者の希望メニューを取り入れながら、各ユニット毎で日々、献立を作成している。落ち着いた雰囲気の中で食事ができるよう、会話しながら食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分量は細かくチェックし、少ない場合は代替品を用意するなど気をつけている。Drから指示が出ている方については、水分量と体重のバランス調整にも気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 全員毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は職員が援助して、常に口腔の清潔維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) メーカーさんの協力を得て効率的なおむつの当て方の勉強会も行い、その人に応じて適切なものを使っている。夜はポータブルを活用しトイレでの排泄ができるようにしている。尿意のない方も昼間はトイレで排泄できるようにトイレ誘導している。	
			(外部評価) 日中は全員トイレ誘導を行っている。排泄記録にて個々の排泄リズムをつかみ、夜間も時間をみてトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録でチェックし、便秘にならないように気をつけているが、自立の方については十分に把握できていない時もある。水分量や食物繊維、体操や散歩なども行っている。下剤の適切な管理にも気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回は入浴できるように支援している。体調や本人の希望に合わせているが、入浴できない場合は、清拭や下着の交換等清潔保持を心がけている。	
			(外部評価) 週3回、1日おきに入浴できるよう支援している。体調不良などで入浴できなかった場合は、翌日に入浴するなど、個々に応じた入浴の支援をしている。プライバシーにも配慮し、着衣が終わるまで、完全個室の対応で安心して入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりが気持ちよく安眠できるように、その人にあった室内の明かり、冷暖房の調節に気を配っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに処方箋を綴じており、どのような薬か、副作用は何か分かるようにしている。薬の変更等は申し送り、個人記録で確認でき、服用前後の確認をして、誤薬のないように十分気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとり自分らしく生活できるように、できる事は役割分担して行っている。日々の生活の中で楽しみや自信につなげるような支援に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は努めて戸外へ出るようにしている。散歩に行かない人は庭先で日向ぼっこなども適宜している。散歩をかねて買い物にも行くなど、その時々に合わせて気分転換を図れるように支援している。時には家族が外食などに連れて行かれることもある。 (外部評価) ホームの周辺は農園が広がっており、安全に散歩が行えるようになっている。近隣の店に買物へ出かけたり、洗濯物干しなど、日常的に外気に触れている。ボランティアの協力を得て散歩へ出かけたり、季節によってコスモス観賞やそうめん流しなど、遠方へもドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が可能な方は、小額ではあるが所持している。自分で欲しいものを自由に買うことができる支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば電話をするが、先方からの取次ぎが多い。手紙を書く方は、家族が宛名を記入したはがきを持って来るなど協力して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用スペースでは、明るさ、温度、湿度、換気等に気を配り快適に過ごして頂けるよう心がけている。掲示板には、季節の行事の写真やぬり絵など貼っている。四季折々の草花を飾り季節感を感じるように努めている。</p> <p>(外部評価) 食堂につづく居間はくつろぎやすいようにソファが置かれており、畳のスペースも設けられている。床暖房になっており、温度管理にも配慮している。食堂は職員や利用者の話し声で心地よい活気に包まれていて、明るい雰囲気である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間では、それぞれ気になった場所があり、テレビを見たり、話をしたりしている。軽作業が出来る方は職員と一緒に話をしながら行う場所にもなっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自分の好みや使い勝手の良いように、工夫したり家族の写真を貼ったり、花を飾ったりされている。亡き夫の位牌に朝夕語りかけている方もある。</p> <p>(外部評価) 各部屋にクローゼットが備え付けられており、衣類や衣装ケースなどの収納が行えるようになっている。家族の写真や手作りの小物、テレビ、机など、それぞれが好みの物や使い慣れた物を持ち込み、居心地のよい空間作りがされている。陽の光が差し込み、明るい居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ホーム内は安全に生活出来るように、バリアフリーで適材適所に手すりを設置している。居室には個々の表札を掲げ、その人の目線に合った目印もつけて、安心して自立支援を心がけている。</p>	